

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600014		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム にこにこ館		
所在地	十和田市相坂字高清水1269		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和3年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活を入居者様に楽しんでいただけるよう外出や季節を感じる行事を企画・実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、外出ができず、施設内で過ごすことが多いため、例年以上に施設内でできる行事を増やして気分転換を図った。また、御家族様との面会も制限されているため、ZOOMを導入して、オンラインでの面会を実施・継続している。感染症予防に努めながら可能な限り入居者様に楽しく生活していただけるように、日々のレクリエーションや食事を工夫しながら、ケアの提供を行っている。現在、108歳の看取り期の入居者様が入居している。御家族様の意向を踏まえて、エアーマットや高カロリーゼリーの活用・他部署と連携し、最期までケアさせていただくこととしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成12年の開設当初から近隣小学校と交流運動会(3年生と利用者)を行っている。利用者に喜ばれ、小学生には高齢者や福祉への関心を抱く機会につながっている等、地域との交流が深まっている。その人に合った自分の家のような生活支援を心掛け、利用者の希望の場所に職員と1対1で出かける「にこにこツアー」を実施して喜ばれている。紙おむつに頼らないケアをホームの方針としており、布パンツの使用をすすめ、トイレでの排泄を大切にしている。また、高齢化・重度化の進む中で、「看取り介護」を実施しており、希望があれば、応えていく姿勢である。コロナ禍ではホーム内での身体運動や流しそめん等を行って楽しめるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念(にこにこ館理念)を掲げ、毎朝の申し送り時に全スタッフで唱和し、意識づけをしたうえでケアを行っている。	開設時から地域交流・地域貢献に努めている。地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を掲げ、申し送り時に唱和したり、ホームの随所に掲示して共有している。職員は、一人ひとりの個性を大切に、心のケアを中心に利用者の日々の生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	にこにこツアーという行事を企画して、スタッフ1名と入居者様1名で外出する機会を設けている。また、地域の方を交えて行事を開催する等、意欲的に交流を図っている。令和2年度はコロナ禍のため、地域交流は行えなかった。	地域の行事に参加するほか、法人合同の行事(夏まつり、文化祭)に地域の方の参加を呼びかけている。また、開設当初から近隣小学校と交流運動会(3年生と利用者)を行っており、利用者は楽しみにしていて、小学生には高齢者や福祉の関心を抱く機会となる等、良いつながりが築かれている。現在はコロナ禍のため自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、勉強会を開催したり、行事を企画することで地域の方々と触れ合い、理解をしていただくように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を開催していたが、今年度はコロナ禍のため書面で対応している。いただいたご意見をもとにサービス内容に反映させている。	民生委員や婦人部会長、地域包括支援センター職員、利用者、多数の家族の参加がある。ホームの近況報告や勉強会(感染症、認知症、疾病ほか)を行い、意見交換している。コロナ禍では、書面を送付して意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、日々の取り組みについて報告している。また、情報交換や情報の共有をさせていただき、連携を取っている。今年度はコロナ禍のため書面で対応をしている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、ホームの現状や取り組みを伝えている。コロナ禍のため、感染症対策の状況を報告しており、必要に応じてメールや電話での連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が書面や勉強会等で身体拘束についての内容を理解している。知識を深めたくてケアを行っている。	ホームや法人で研修を行って理解を深め、身体拘束は行わない姿勢で取り組んでいる。玄関や居室は施錠をせず、自由に出入りできるようにしている。外出傾向があれば、あえて止めないで、職員が寄り添って一緒に歩き、気持ちが落ち着くまで見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員でマニュアルを読み、理解を深めたくてケアを行うようにしている。また、施設内外での研修や勉強会に参加して、学ぶ機会を得ている。身体拘束や言葉の暴力に十分注意をして、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加している。研修に参加した職員には、情報を部署内の会議等で伝達する機会を設けており、職員間で共有・理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様や御家族様に書面及び口頭で十分に説明を行い、納得していただいたうえで契約をしている。不明な点や疑問点があった際には、納得するまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や御家族様への満足度アンケート等で、ご意見・ご要望を挙げていただいている。また、日頃の会話等で入居者様に対してのご要望を聞いて、ケアに反映させている。	面会時や電話連絡の際に近況や健康状態を伝えながら、遠慮なく意見等を出せる関係作りを心掛けている。運営推進会議は、多いときには9名の家族の参加があり、質問や要望が出されている。また、季節毎の「にこにこ通信」で利用者の暮らしぶりを伝えて、家族が意見を出せるきっかけにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議や緊急会議で、職員の意見を聞く時間や個人的に面談を行う機会を設けて仕事に反映させている。	月1回の全体会議では、各ユニット利用者のケア内容や業務内容、行事予定、委員会報告について話し合い、共有する場としている。各職員は年2回、自己目標を立てて、日頃の仕事を直したり、学びの目標を設定したりして、日々のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や勤務状況を把握している。また、個々の目標を設定していただき、日々の業務の中でやりがいや向上心が持てるようにしている。面会や日々の様子を把握して、昇給や昇格を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に施設内外の研修への参加を勧めている。参加の機会を確保しながらスキルアップに努めている。また、研修資料を職員全員が閲覧できる体制を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部門会議を定期的に行い、ネットワークを作っている。系列のグループホームと業務内容や情報交換を行っており、関係性の構築ができています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時のアセスメントを通して、入居者様の把握に努めている。また、日々のコミュニケーションの中でご本人様の想いに耳を傾けながら、ご本人様との信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結時に不安や要望を聞き、御家族様の想いを尊重するように努める。また、面会時には御家族様とコミュニケーションを積極的に行い、信頼関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、入居者様と御家族様の要望を確認して、担当ケアマネジャーと調整を行っている。また、関係機関や他のサービス利用時の対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の経歴や現在までの生活歴を理解するように努め、軽作業等を通して身近な存在と思っていただけるように環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と情報交換を行い、御家族様の想いを理解・反映できるように努めている。また、入居者様を共に支えていく関係を保持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と入居者様との交流を通して、入居者様の馴染みの人や場所を知ることにも努めている。新型コロナウイルス感染症流行時以外は、馴染みの美容院や店に行ったり、頼りにしている方との電話や面会を行っている。	入居時の聞き取りや普段の会話から、馴染みの人や場所を把握して、要望があれば外出している。友人や知人の来訪が多く、ゆっくりしてもらっている。現在はコロナ禍のため、面会を制限しており、電話やオンラインを使用して家族と利用者が会話できるようにする等、これまでの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者様同士の関係を把握している。トラブルになりそうときは、職員が介入して影響がないよう努めている。また、一人ひとりが孤立しないようにコミュニケーションの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了後も、様子を確認して必要時は相談に乗る等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握して、職員間で共有している。また、入居者様の思いに寄り添いながら支援するように努めている。	利用者が安心した気持ちで思いを表せるように、一人ひとりに寄り添って思いや希望の把握に努めている。年1回の利用者個別のお出かけ企画である「にこにこツアー」や入浴介助等の利用者と1対1になれる機会を大切にして、ゆったりと話を聞き、受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・御家族様から情報収集して、アセスメントを行い、これまでの経過について把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの1日の生活リズムを把握して、職員間で共有している。生活の中でできることを観察して、その能力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様により良い生活をしていただくために、入居者様・御家族様と話し合いをして、介護計画を作成している。3ヶ月ごとに評価して、変化があった際には再検討するようにしている。	その人らしい暮らしが継続できるように、利用者の生活歴や家族の思い・要望、医療機関の情報を基に、全職員で話し合っている。現状を反映した問題提起や解決策を記載した具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特記事項を個々のケースに記載して残している。変化への対応については、全職員で共有して、統一したケアを行うように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係機関と連携して、柔軟な対応・サービスの提供ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校との交流を通して、地域の方々との繋がりを持てるようにしている。また、隣接の老人保健施設やケアマネジャー等と関わりを持ち、安心・安全な暮らしをサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・御家族様が希望する場合には、希望の病院を受診できるようにサポートしている。かかりつけ医がない場合は、連携病院で診ていただけるようにサポートしている。	入居前の受診状況を把握して、利用者や家族が希望する医療機関を受診している。市内の場合は職員が受診介助している。また、週1回の訪問看護による健康管理等を行い、安心できるようにしている。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化があった際は、1週間に1度来館する訪問看護師の来館時に相談をしている。それ以外でも気になることがある場合は、隣接の老健の看護師や訪問看護師・病院に連絡して相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態の申し送りや退院時の状態について、しっかりと把握できるようにサマリーを作成して情報共有に努めている。また、病院にこまめに連絡を行い、状態の把握ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期ケアについての説明を行っている。状態変化の際は、御家族様にも病院受診に同行していただき、医師の説明を聞いていただくようにしている。看取りについての勉強会を行い、対応の仕方をスタッフ間で共有している。	「重度化対応、終末期ケア対応指針」を明示している。往診医がないため、対応可能な範囲でホームでの看取り介護を実施し、病院で最期を迎えることになっている。状態変化に応じて、家族や医師、看護師と連携を密にしている。先日は、108歳の自然経過での終末期の介護を経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接施設で開催する勉強会に参加して、知識を深めている。ロールプレイを行い、実際に想定した訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いのもと、毎年避難訓練を行っている。また、隣接の老人保健施設と合同避難訓練を実施して、連携の仕方を確認して協力体制を整えている。	消防署の立会いのもと、年2回、併設施設を含めて法人全体で総合訓練を実施している。また、毎月の会議の中でも、通報訓練や誘導方法等を確認している。住宅地から離れて立地しており、併設施設職員や近くに住む職員が駆けつけられる連絡体制となっている。災害に備えて、食料や水、ストーブ、発電機を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛けについて、職員間で都度見直しを行い、個々を尊重した声掛け・援助を行っている。また、個人情報の取り扱いにも十分に配慮をしている。	「一人ひとりの個性を大切に」の理念の基、言動を否定せず、ゆったりと受け止め、思いや要望を聞いている。年2回、職員は接遇チェックを行い、点数で見える化して、日々の対応をふりかえってより良いケアに活かせるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを尊重して、自己決定できるような場面を設けられるようにしている。また、入居者様の希望に添えるようにケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや思いに合わせた支援ができるように、アセスメントを行っている。職員目線でのケアにならないように職員間で声を掛け合うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望する衣類を一緒に選び、好きな衣類を着用していただいたり、整髪等の身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態や体調に考慮して、食べやすい器や盛り付け・食事形態で提供している。また、食事の盛り付け作業や下膳等は無理のない範囲で一緒に行っている。	季節の食材や利用者の好みに配慮して、併設する老人保健施設の管理栄養士が献立を作成している。嚥下状態に合わせた食事形態(キザミ食、トロミ食)で提供している。利用者は、できる範囲で盛り付けや茶碗拭き等を職員と一緒にしている。それぞれのペースでゆったりと食事が楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する老人保健施設の管理栄養士に相談して、献立を作成している。水分摂取の困難な方や摂取出来ない食品がある方については、一人ひとりに合わせた提供を行い、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように支援している。ケアが不十分な方には、付き添いや援助を行い、口腔内の異常等の有無を確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様それぞれの排泄リズムを把握して、トイレ誘導や排泄の声掛けを行っている。可能な限りトイレでの排泄ができるように支援して、オムツに頼らないケアを行っている。	排泄パターンを把握して、事前誘導を行い、トイレで排泄できるように支援を行っている。オムツに頼らないケアをホームの方針としており、できる限り布パンツを使用している。利用者自身、排泄への意識が少しずつ自立する等、良い変化に結びついている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方の日々の生活リズムや便秘となり得る背景をアセスメントして、薬に頼らず排便を促すことができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様の気分やペースに合わせて入浴ができるように努めている。拒否があった際は、曜日変更や時間を置く等の工夫をしている。入浴時の関わりを大切にして、入居者様の思いを引き出す場としている。	週2回のペースで、利用者の希望(順番、熱い湯)を聞きながら、利用者の清潔保持に努めている。1対1で介助しており、ゆっくりと利用者の思いを聞かせてもらったり、安全で気持ちの良い入浴となるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを把握して、体調や状況に合わせた休息や体調管理を行う等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬変更時は、副作用の確認・服薬により起こり得る症状や状態変化について職員間で共有するように努めている。服薬援助時には、飲み込み確認を行い、確実に服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や状態に合わせて作品作りやレクリエーションへの参加を支援している。達成感を味わっていただき、気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ禍のため外出することができていないが、季節の移り変わりや時事ニュースから楽しい出来事を探して、お伝えしている。例年は、月に1度の外出行事を企画して、可能な限り実施している。	散歩や買い物、ドライブ等利用者の希望に沿って外出できるように支援している。季節を感じることができる花見やお祭り、運動会、クリスマス会等、年間の行事を計画している。また、年1回の「にこにこツアー」等、楽しみや気分転換になるように支援している。コロナ禍では、ホーム内での身体運動や流しそうめん等を行い、楽しめるように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様から要望を伺い、必要時には御家族様と相談して、入居者様が管理とすることを了承していただき、金銭管理の支援をしている。外出時には、職員が見守りしながら支払いを体験していただく等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様から電話があった際は、入居者様に取り次いでコミュニケーションをする時間を設けている。定期的を送付しているにこにこ通信やくもん学習のお便りで日々の様子をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓があり、自然光が入って明るい造りとなっている。居室やホールには、季節の壁画を貼って季節を感じていただけるようにしている。温度計で室温や湿度の管理を行い、快適に過ごしていただけるようにしている。	ホールの食卓や椅子、ソファで利用者は思い思いにくつろいでいる。調理の音や日々の生活の音を大切にしている。季節毎の手作りの壁画を飾ったり、ホーム内に生活感や季節感を取り入れながら居心地よく過ごせるようにしている。コロナ禍では換気や消毒に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテレビを見たり、他者とレクリエーションを行いながら関わりが持てるようにしている。気分が乗らないときは、無理強わずに居室で過ごしていただく等している。入居者様のペースに合わせた生活をしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、御家族様の写真や入居者様の使い慣れた物品を準備していただき、入居者様の過ごしやすい環境作りに努めている。	その人らしい居室で、安心・快適に暮らせるように、自宅で使い慣れた物を持って来てもらえるように働きかけている。テレビや人形、写真等を置いている。持ち込みが少ない場合は、利用者の希望を聞きながら、一緒に居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室・浴室等が分かりやすいように床や壁面に表示して、場所を認識しやすい工夫をしている。		